

日本体操学会会報 Vol.16/2019.12

ごあいさつ

日本体操学会会長 後藤 洋子

日本体操学会第19回大会が令和元年9月に、日本海に面した「新潟大学五十嵐キャンパス」で開催されました。「体操を通した豊かなスポーツライフを考える」をテーマに、基調講演、シンポジウム、研究発表、ワークショップ等が開催され、生涯体操に繋がる話題提供とディスカッションが行われました。Welcomeの演技発表では新潟大学の学生さんに加えて卒業生たちも参加され、若い力とエネルギーを感じました。体育館から懇親会会場への道中には道案内の学生さんが大勢並んで声をかけて頂きました。おもてなしの心が伝わり、お酒と料理が一層美味しく感じました。

本会報は学会大会の様子を中心にご報告いたします。少し時間が経ってしまいましたが、参加された皆様は懐かしく「リフレクション」いたしましょう。参加できなかった皆様は是非、次回お目に掛かりましょう。

最後になりましたが、開催に当たって御尽力頂いた檜皮貴子さんと新潟大学の学生さん、新潟体操研究会の皆様をはじめ、関係者の皆様にご心より感謝申し上げます。

日本体操学会第19回学会大会報告

第19回大会が、新潟大学五十嵐キャンパスにて開催されました。

- 期間 2019年9月21日(土)、22日(日)
- テーマ 体操を通した豊かなスポーツライフを考える
- 会場 新潟大学五十嵐キャンパス 教育学部講義棟・第1体育館
- 学会大会プログラム (日本体操学会HP参照)

<https://taisou.jp/wp-content/uploads/2019/09/19th-program.pdf>

基調講演

滝澤かほる氏 (新潟大学名誉教授・新潟県体操研究会顧問)

基調講演では、滝澤かほる氏(新潟大学名誉教授、新潟県体操研究会顧問)より、「体操の価値を探る-体操の研究と実践から-」というテーマでご講演いただいた。同氏はリズム体操の価値を、「ありたい自分に出会い」、「自分の可能性を発見し」、「こことからだを開放していく」ことであるとし、「はずみ」や「振り」といったリズム体操の基本的動作に関する研究、体操の指導法に関する研究など様々な視点からリズム体操研究を実践されてきた。これらの研究内容について、リズム体操の歴史的背景を踏まえ、貴重な映像資料とともにご紹介いただいた講演について、参加者は熱心に聴講していた。



公募研究発表・口頭研究発表



平成 30 年度公募研究プロジェクト発表として、平成 30 年度に日本体操学会より助成を受けた研究プロジェクト 1 題（研究代表：住本純氏）の研究報告がなされた。研究題目は、「小学校低学年体づくり運動の教材開発と実践」であった。体づくり運動領域の小学校低学年におけるボールを用いた教材開発と実際の授業実践から、その実態を明らかにすることを目的とした研究であった。児童自身が「体を動かす楽しさや心地よさ」についてどのように感じていたのかという観点から、質的・量的の両側面において開発した教材の評価が示された。質疑応答では、実際の現場に生かす視点からの質疑がなされていた。

口頭発表では、鈴木慶子氏による発表がおこなわれた。「中学校における体づくり運動の教材開発 - 単元としての授業の構想その 1 - 」という題目で、アンケート調査により、体づくり運動の授業実践に関する実態を把握するとともに、中学校体育における体づくり運動の単元を構想するために有用となる知見を得ることを目的とした研究であった。発表では、中学校体育における体づくり運動を単元として構成する上での課題が提示されていた。



Welcome to 新潟 体操発表（新潟大学学生・卒業生）

まずは、新潟大学リズム体操部によるラート作品が発表された。今年の全日本学生ラート競技選手権のデモ演技部門で優勝したとのことで、安定した演技と笑顔で夢のテーマパークへ誘ってくれた。

次は、ジャズ体操「ブギーワンダーランド」の発表であった。この作品は、35 年以上にわたって新潟大学保健体育科の学生が継承してきた作品で、学生・卒業生の合同発表であった。保健体育科の学生は、入学すると先輩たちから教えられ、毎年 12 月に開催される「体操発表会/新潟」で卒業生を含めて発表されている。参加人数によって隊形が変化し、動きも少しずつ変わってきているとのことだが、卒業生の結婚式の余興で披露されるなど、新潟大生に愛されている作品であることが伝わってきた。



ポスター研究発表・ポスター実践報告

ポスター研究発表 10 題、ポスター実践報告 7 題が発表された。まず各研究 1 分間の口頭によるインパクトプレゼンテーションを行ってから、発表者がそれぞれのポスターの前に立ち、参加者とディスカッションを行なった。

地元新潟の学校現場の研究やスマホを活用した体操の研究などバラエティに富んだ発表であった。参加者もこの発表形式に慣れてきており、実技内容を体験しながら、活発な意見交換がなされていた。



朝の体操 : The Taiso

荒木達雄氏（日本体育大学教授）より、東京オリンピック 2020 の会場での実施が検討されている「The Taiso」をご紹介いただいた。「The Taiso」は（公財）日本体操協会一般体操委員会が作成中の体操である。学会大会 2 日目の朝に、参加者全員で座位バージョンを実施し、頭と身体をすっきりと目覚めさせることができた。また、現在も改善途中とのことで、会場からも意見を募り、改良案や気持ちよかった動きについて積極的に意見交換がなされた。



シンポジウム : 体操を通した豊かなスポーツライフを考える



「体操を通した豊かなスポーツライフを考える」というテーマで、長谷川聖修氏（筑波大学教授）、高見潤氏（新潟市立大鷲小学校教頭）、石垣健二氏（東海学園大学教授）の 3 名をシンポジストとしてお迎えした。長谷川氏は幼児や高齢者を対象とした地域における体操指導の役割についてお話しされた。高見氏は小学校における自身の実践内容を発表され、小学校教員として体づくり運動の価値について述べられた。石垣氏は、前者 2 名の話を受けて、体操による“かかわり”について、「身体的対話」と「身体的な感じ」という言葉を中心に体育原理の視点からお話しされた。地域や学校での実践、そして研究の視点から、生涯を通した豊かな体操ライフへのヒントと今後の本学会が取り組むべき課題を伺うことができた。

ワークショップ : リボンを使った体操 青野光子氏（新潟青陵大学短期大学部）

「リボンを使った体操」をテーマに青野光子氏（新潟青陵大学短期大学部教授）のワークショップが行われた。青野氏が新潟青陵大学保育士養成課程において、幼児体育や身体表現指導法等の科目で学生へご指導されている作品を中心に、手具を使ったリズム体操が紹介された。ワークショップのスタートはペアやグループでストレッチし、アイスブレイクを兼ねたウォーミングアップを行った。その後、新体操で使用するリボンの基本的な使い方（ラ



セン、蛇形、波形等) を組み合わせた一連の体操を行った。参加者は様々な色の鮮やかなリボンを持ってそれぞれの軌跡を描きながら、ミッキーマウスマーチの軽快な曲に合わせ、体全体を大きく動かして楽しみながら動いていた。



分科会活動：キッズ，学校体育，中・高齢者



分科会活動では、「キッズ」「学校体育」「中・高齢者」の3つに分かれ、各ライフステージにおける実践紹介や意見交換が行われた。各分科会での活動後に、各分科会のリーダーである長谷川聖修氏・大塚隆氏・吉中康子氏より報告が行われた。

＜キッズ分科会＞前半は「キッズ向けワクワク用具大集合！」というテーマで分科会メンバーが日頃活用している用具を持ち寄り、幼児が楽しく動ける運動用具の検討を行った。後半は、しかのてつや氏が創作したオリジナルソング「タオルトラック」「おかあサンバ」に合わせたペットボトルやタオル（布）を使った体操が紹介された。



＜学校体育分科会＞今回の学会大会シンポジウムや実践研究発表で高見潤氏、大塚隆氏から紹介された現場で実際に行われている「体づくり運動」の教材や運動内容を参加者が体験し、動きの深め方や教材としての活用等について意見交換が行われた。

＜中・高齢者分科会＞前半は分科会メンバーの実践共有としてビデオによる紹介があり、後半は吉中康子氏による中・高齢者を対象とした体操が紹介された。また参加メンバーに事前アンケートを実施し、現場指導における実態の情報共有や今後の分科会活動の要望等について意見交換を行った。



令和元年度日本体操学会理事会／総会報告

総会では、7つの議案と8つの報告がされ、満場一致で承認された。体操研修会補助金交付事例が紹介され、活用が呼びかけられた。

第15回体操研究集会は、2020年3月8日(日)に筑波大学で開催されることとなった。

2020年度は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されるため、学会大会は開催せず、総会と合わせて第16回体操研究集会を実施し、2021年度の第20回記念学会大会に向けて準備を進めていくことが決まった。

